

# 文楽 Bunraku News

## 応援団通信



ひこさんごんげんちかいのすけだち  
『彦山権現誓助剣』

### 文楽応援団の自己紹介 Issued by Bunraku Ouendan

文楽応援団は文楽の普及・振興を目的とするボランティアのグループです  
おもな活動内容は

- ①文楽公演のポスター・ちらしを配布
- ②文楽関係の展示
- ③観劇のグループに公演のあらすじや見どころ聞きどころを解説
- ④劇場外での普及活動(文楽の楽しみ方などを解説)等々です

この他、文楽に関する学習会や懇親会なども行います

### 新規団員を募集します

文楽の普及のためにあなたも応援団に参加してください  
国立文楽劇場の友の会会員であることが必要です  
募集要領・申込用紙は国立文楽劇場 1階展示室の  
文楽応援団連絡デスクにあります。締切は平成22年 1月末日です

文楽応援団ホームページアドレス  
<http://bunrakuouendan.web.fc2.com/index.html>

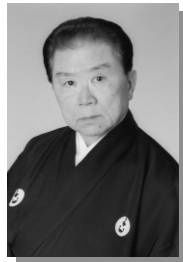
〒542-0073 大阪市中央区日本橋1-12-10

国立文楽劇場 事業推進課 文楽応援団担当

TEL 06-6212-2531(代) FAX 06-6212-1202



にんかむろ  
『二人秀』



## 吉田簀助師の文化功労者顕彰を 心からお慶び申し上げます

### 文楽応援団一同

## 文楽応援団に思うこと

国立文楽劇場支配人

秋田 憲良

私は、文楽公演の初日を迎える前日に、劇場中を回って点検いたします。舞台から楽屋、ロビー、そして展示室。それぞれの持ち場で初日を迎える準備をいたしますが、劇場中に緊張感と期待感が高まって行くのを感じます。

文楽応援団の皆さんも忙しそうに作業をなさっています。これを見て私がいつも思いますことは、文楽応援団は文楽のお客様だけでなく、出演者の皆さんや、スタッフからも愛されているということです。と私が申しますのには理由があります。展示室では、通常展示で文楽についてご紹介するだけでなく、触れる展示といたしまして、実物の見台や三味線、人形などを展示し、それぞれについて文楽応援団員が実物をお客様に示して、お手に触れていただきながら説明をいたします。

これらの資料のほとんどが、出演者である大夫・三味線・人形の方々、それに裏方である衣裳・かしら・床山・小道具といったスタッフの方々のご厚意で調達されたものなのです。もとより文楽応援団はボランティアのグループなので予算というものをもち

ちません。ここにこれだけの資料が集まっているのは、文楽応援団が、出演者からもスタッフからも好意をもって迎えられている証しであると申せましょう。

文楽応援団は平成13年に、国立文楽劇場友の会会員の有志が集まって誕生しました。もちろん皆さん熱心な文楽ファンですが、ボランティアとしての活動の経験者は少なく、私共も経験のないことで、まったくの手探りで活動が始められました。

やがて、劇場外で文楽の解説に招かれたり、種々のイベントに参加して文楽の広報をしたり、活動が広がって参りました。ボランティアでこれだけの仕事をこなすのも大変ご苦労の多いこととお察しいたしますが、文楽応援団の皆さんはいつも楽しんで活動しています。文楽が好きだということに尽きると思います。団員と文楽の話に興じておられるお客様も楽しそうです。

これからも、劇場においで下さいます大勢のお客様に、是非展示室にもお立ち寄りいただき、お気軽に団員にお声をかけていただきたいと思います。願っております。

## やっぱり文楽はやめられない！

其の十二

## 書写山へ行くこうバスツアー

今井 睦美

十一月二十九日八時に団員二十四名で文楽劇場前を出発し、書写山・圓教寺へ向かいました。

ロープウェイで昇ると山上は、紅葉真っ盛りで紅色や黄色で飾られ美しかったです。圓教寺では、お寺のお坊さんの案内を聞きながら摩尼殿大講堂、食堂、常行堂と拝観しました。

圓教寺に縁のある人物と言えば、少年時代を過ごした弁慶です。境内には、「弁慶が使った机」、寝ている間に顔に落書きを書かれ、それを見た「弁慶の鏡井戸」がありました。この時怒った弁慶は、相手とケンカとなり、相手が炭櫃にあつた燃えさしを弁慶に投げつけ、勢いが余り講堂の屋根に燃え移り建物が燃え尽きたと言つ伝説を聞きました。

その後山を下り、五条橋で源義経の家来となり最後の最後まで主の為に命をかけた弁慶ですが、圓教寺では、違った面がありました。そんな「弁慶」の生き様をテーマに物語を鑑賞する

## 「か」(故語)? 「か」(死語)?

【せいてせかん】

人に物を頼むときにつかわれた。

『これ仕上げといてんか、せいてせかんけど』

真意はできたら早くして欲しい。

(M・H)

のも面白いのではないかと思います。また、幸いにも本尊六臂如意輪観世音菩薩や四天王を拝観できました(翌日で拝観が終了との事でした)。

昼食後、バスで高砂市の曾根天満宮へ行きました。宮司さんの案内で菅原道真が太宰府に左遷の途中立ち寄った際手植えたとされる「曾根の松」を見学し、高砂神社では「相生の松」と謡曲「高砂」について説明を聞きました。

心配していた渋滞に遭わず、一日中お天気にも恵まれ、午後五時半に無事劇場前に着きました。

この旅を通じて、圓教寺の最盛期には百を超える塔頭と麓には町が形成されていた事、高砂神社の前は住宅地ですが、江戸時代にはすぐ目の前が海であった事、そのような風景を想像しながら歩いたり、弁慶や菅原道真が身近な存在に感じたり、文楽に関係のある場所や人物がこの関西にはたくさんあるのだと再認識。ますます文楽に興味津々です。

やっぱり文楽はやめられない！



摩尼殿



大講堂前

# 街で見かけた文楽人形

其の六

## 【静御前】と【お軽】

金岡 純子

みなさまは新大阪駅の3階・タクシー降り場を入ってすぐの待合せコーナー「千成びょうたん」と背中あわせの位置に文楽人形「静御前」が飾られているのをご存知だろうか。また新幹線21・22番線ホーム中央階段の正面に掲げられている文楽人形の大写真パネルにはお気づきだろうか。

一際目立つのはこちらかと思うが、写真の人形は『仮名手本忠臣蔵』・七段目「祇園一力茶屋の段」の遊女「お軽」である。遊女姿ながら少しきりつとした表情で（と私には思えるのだが）東京方面からの列車でホーム

に降り立った人々を迎えてくれる。瞬間「ああ大阪だ！」と思わせてくれるアイキヤツチャーである。

一方『義経千本桜』四段目道行初音旅「静御前」は列車に急ぐ人々が中心の場所柄、ともすれば気づかれにくいと思うが、待合せ中の人々が「こんなところに文楽人形発見！」の可能性は大である。

ちなみにこれらの展示品は関西空港の開港と同時期に新大阪駅開業30周年を迎えた記念に、新大阪駅のシンボルとして大阪の地にゆかりの深い豊太閤の馬印「千成びょうたん」と大阪の地に生まれ育った人形浄瑠璃の「文楽人形」が一九九八年に設置されたとある。まだご存知でない方は、一度静御前とお軽に会って見て…

# 信太の森を訪ねて

岩田 寿子

十月末、『芦屋道満大内鑑』ゆかりの地、信太の森を団員六名で訪ねた。JR北信太駅下車。初めに、葛の葉が姿を映したと言われる鏡池へ。池に隣接する信太の森ふるさと館では、十一月一日に開かれる芸能祭で毎年上演されている子供歌舞伎『葛の葉物語』の練習を見学。又、絶滅した保名菊最後の一輪が保存されていた。

次に向かったのは聖神社。日知り「暦の神」を祀っているとも考えられる。保名と葛の葉が暮らしていた信太森の面影は、今でも、この神社の森にうかがうことができる。次に訪れた葛葉稲荷神社では、公演のポスター等を捧げ、成功を祈願した。

# 街で見かけた文楽人形



「お軽」

「静御前」

# 最近の活動風景



「船場まつり」

2009. 9. 19~21



「御堂筋 Kappo」

2009. 10. 11



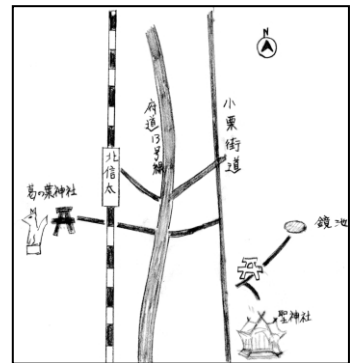
「千林につめ人形がやってくる」

2009. 10. 18



「葛葉稲荷神社」

2009. 10. 24



JR北信太 ウォーキングマップ

- 7/18 夏休み公演初日。展示解説、演目説明等。8月5日まで。  
応援団通信4,000部発行。
- 7/25 YWCAより解説依頼7名。英語解説。担当:小倉、北。
- 8/ 5 毎日新聞より取材。出席:岡持。
- 8/12 毎日新聞に掲載される。
- 8/17 応援団HP委員会。出席:7名
- 8/20 韓国中央大学学生より解説依頼5名。担当:安藤。
- 8/22 スタッフ会議。出席:9名。
- 8/26 第27回ラウンド会議。出席:安藤。
- 8/29 第5回研修会。出席:35名。夏休み公演の総括など。  
学習会「人形浄瑠璃のこぼれ～大阪弁の今むかし～」講師:竹村。
- 9/ 5 「御堂筋kappo2009」第1回打合せ。出席:安藤。
- 9/11 応援団報告者発送作業。世話人:松井、安藤。  
「船場まつり」前準備。世話人:木田、安藤。
- 9/12 「船場まつり」搬入作業。世話人:木田、安藤。
- 9/18 「御堂筋kappo2009」第2回打合せ。出席:安藤。
- 9/19～9/21 「船場まつり」において、11月公演広報。  
世話人:荒木、猪飼、馬越、大野、岡持、木田、斉藤、荳司、  
畑、二神、丸山、宮本。
- 9/26 「御堂筋kappo 2009」第3回打合せ。出席:安藤。
- 9/30 第28回ラウンド会議。出席:安藤。
- 10/ 1 千林商店街振興組合より出展依頼。
- 10/ 6 「御堂筋kappo2009」第4回打合せ。出席:安藤。
- 10/10 スタッフ会議。出席:7名。
- 10/11 「御堂筋kappo2009」にて11月公演広報。公演チラシ1,800枚配布。  
世話人:荒木、今井、猪飼、大野、岡持、柴多、荳司、松井、  
丸山、宮本、目黒、八木、安藤。
- 10/17 第6回研修会。出席:37名。11月公演解説日程調整、演目説明等。  
勉強会「文楽と宝塚歌劇について」講師:榊田。
- 10/18 「千林ふれあい館」において文楽広報。公演チラシ300枚配布。  
世話人:岩田、榊田、畑、目黒、宮本、安藤。
- 10/24 「信太の森を訪ねよう」ツアー。  
参加者:岩田、岡持、榊田、羽田、目黒、安藤。
- 10/27 「御堂筋kappo2009」第5回反省と今後について。出席:安藤。
- 10/28 応援団活動写真パネル作成作業。世話人:荒木、安藤。  
研修会報告書発送作業。世話人:折井、松井。
- 10/31 11月公演初日。展示解説、演目解説等。11月23日まで。  
第1回応援団通信編集会議。出席:3名。
- 11/12 神戸女学院国際交流センターより英語解説依頼:6名。  
担当:小倉、大野、岡持、榊田、荳司、畑。
- 11/15 関西大学「女子秀麗会」より解説依頼39名。担当:大野、榊田。
- 11/23 11月公演千秋楽。大入袋を頂く
- 11/26 第2回編集会議。出席:3名。
- 11/29 「書写山へ行くバスツアー」参加者:24名。
- 12/ 5 スタッフ会議。出席:9名。
- 12/12 第7回研修会。出席:38名。新春公演解説日程調整等。  
懇親会。

## 文楽公演

平成22年3月

## 地方公演スケジュール

【主催】文楽協会【後援】文化庁

### 世界無形遺産、人形浄瑠璃文楽。

演目【昼の部】『さんじゅうさんげんどうむなざのゆらい 卅三間堂棟由来』へいたろう すみか 平太郎住家よりきやり おんど だん 木遣音戸の段 『ほんちやうにじゅうしこう 本朝廿四孝』じゆしゅうこう だん 十種香の段 おくにわ きつねび だん 奥庭 狐火の段

【夜の部】『えほんたいこうき 絵本太功記』ゆうがわだな だん 夕顔棚の段 あまがさき だん 尼ヶ崎の段 『ひだかがわいりあいざくら わたば だん 日高川入相花王』わたば だん 渡し場の段

#### 地方公演チケットお問い合わせ先

2月28日(日)	姫路キャスパホール	079-284-5806	3月9日(火)	大田区民プラザ(大ホール)	03-3750-1611
3月2日(火)	メディキット県民文化センター (宮崎県立芸術劇場)	0985-28-3210	11日(木)	飯田文化会館	0265-23-3552
4日(木)	iichiko総合文化センター (iichiko音の泉ホール)	097-533-4004	14日(日)	宇都宮市文化会館	028-636-2125
5日(金)	戸畑市民会館(大ホール)	093-562-2655	15日(月)	新潟市民プラザ	025-224-5521
6日(土)	ルネッサながと劇場	0837-26-6001	18日(木)	アルカニックホール・オクト	06-6487-0810
7日(日)	アステールプラザ(中ホール)	082-244-8000	20日(土)	豊橋市民文化会館	0532-61-6145
			21日(日)	三重県文化会館(中ホール)	059-233-1122

文楽応援団通信 第16号 2010年1月3日

編集・発行 文楽応援団(年2回発行予定)

連絡先 〒542-0073 大阪市中央区日本橋1-12-10

国立文楽劇場 事業推進課

TEL06-6212-2531(代) FAX06-6212-1202